

## 『平和な義の実を結ぶ』 ヘブル人への手紙12章1～14節 2018.9.23 聖日礼拝説教より

『すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます。』 ヘブル人への手紙 12章 11節

❶ **イエス様に目を向け、平安を得る(2節)**…「(信仰の)創始者」とは「導く者」。イエスは、私たちが創り主・救い主を信じられるように導くお方。更に「目を離さない」は「見通しをつける」こと。お先真っ暗の人生で御声を聴き、御言葉を信じる時、確信と平安をもって歩める。十字架のイエスを仰ぎ、罪人の身代わりに死なれて救いの手を差し伸べられた方を仰げ(12:3)。主と共に十字架につけられた強盗が悔い改めた時、すぐイエスは「あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいる(ルカ 23:43)」と宣言！その強盗は死に際に永遠の救いと御国の安息が約束された！彼の信仰生活は十字架上のわずか数時間だったが、人生最悪の苦難の中で、神の深い慰めを受け、慰めの中で召された(ガラテヤ 2:20)。彼こそ『いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて、目の前の自分の人生を駆け抜けた(12:1)』人生だった。私たちは、各々の人生を導かれるお方から目を離すことなく、無事に御国へ導かれない！

❷ **聖められ平安の実を結ぶ(10～14節)**…『霊の父の懲らしめ(12:10)』とは、神の子としての「しつけ」であり、聖められること(1ペテロ 1:15-16)。罪赦された神の子は、父なる神との親しい関係(愛)に生きる。「聖め」には、3つの意味がある。第一に神と兄弟姉妹との雲ひとつない「関係」！第二に、個人的体験以上に、日々社会の中で実践するもの、第三に、被造物全体の回復(平和)を実現するもの！「私」の救いは、全被造物の回復の始まりであり、平和の使者として世に遣わされることである。今、社会も自然界も、癒しと回復を求めており、クリスチャンは、平和の福音の良き知らせを伝える責任がある(ヤコブ 1:18)。『あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい(マタイ 5:48)』の「完全」は目標！

★花のつぼみは、まだ「花」ではないが、咲いていないから不完全？いや、これから花を咲かせる「完全なつぼみ」！パウロは、自分は未完成だが(完全を得るように)イエスが自分を捕らえてくださったので、完成を旨ざして一心に走っている(ピリピ 3:12～14)と告げた！神がキリストを通して、あなたと隣人との関係、被造物全体を癒し、平和を回復されるという良き知らせ(福音)を、喜んで伝えたい！いや私たち自身が、『喜びの知らせ』そのものとなって、平和の花を咲かせ、平和の実を結ぶ者になりたい！